

## 第4回 大工学講座

「地蔵を巡り大山の歴史を学ぶ」

第4回大工学講座を10月3日に行いました。雨模様でしたが、17名が参加し、講師の名和歴史研究会の金田千義さん、大山町ガイドボランティアの会の阿部誠さんと一緒に、往時の大山参りを思い浮かべながら歩きました。

横手道は、大山参りのために使われていた古道の一つで、道しるべとして一町ごとに一町地蔵が立ち並び、10体前後が現存しています。地蔵には、備中や雲州などの地名と、寄進した人々と思われる人名や銘文が刻まれており、遠方からも大山が信仰されていたことが伺えました。



横手道で一町地蔵を見学

## 「我が青春の日々を語る」 近藤 裕さん講演会

町立図書館本館に寄贈の紙芝居「鉄路のかなたへ」のモデルである近藤裕さんの講演会が、9月13日に保健福祉センターだいせんで行われました。近藤さんは琴浦町出身で、青年時代、不運にも大山口列車空襲で被災されました。



講演会では、被災当時の自分の生活のことやいろいろな人の好意に助けられ、その後もくじけずに生きてきたこと、また、悲惨な戦争を二度と繰り返してはならないことなどを語られました。

紙芝居「鉄路のかなたへ」には、空襲のときの体験や同級生に助けられたエピソードなどを中心に近藤さんの半生が描かれています。この紙芝居は、地元大山町で町民を巻き込んだ惨事があったことを、若い世代に語り継ぐため、大山口列車空襲被災者の会によって制作されました。紙芝居を様々な機会に利用し、町民としてその願いに応えていきたいものです。

榎水高原から天空リフトを使って横手道まで登りましたが、眼下に二重の虹が現れ、参加者から歓声が上がりました。シバグリが多く落ちていたり、ナナカマドが赤い実をたくさんつけていたりして、大山の秋を満喫することができました。大山の自然と歴史にふれ、実り多い一日となりました。

## 体験力が子どもたちの未来の糧に

### 『なわ通学合宿』

名和公民館

9月20日(水)から24日(日)まで、名和小学校の4年～6年生の24名が、家族と離れ4泊5日間の「通学合宿」に参加しました。

御来屋漁村センターを会場に、今年も「仲間づくり・自分づくり・子どもたちは多くの支援スタッフに支えられ、食事作り・掃除・洗濯など

をしながら共同生活を送りました。体験活動では、圓福寺(御来屋)での夜の座禅体験や「まち学探検」、「肝だめし」などを行いました。

通学合宿恒例の「ふれあい交流会」では、大勢の地域の方々に参加していただく中、手作りの料理や小物のプレゼント、心を込めたおもてなしをしました。会場内は、名和中学校吹奏楽部によるミニ演奏会や中学生の出店もあり、にぎやかで和やかな雰囲気になりました。子どもたちは通学合宿を通して、泣いたり笑ったりしながら、ここでしか得られない時間を過ごしました。



▲どきどきワクワクの初日  
玄関前で記念写真